

令和6年度 山梨県立青洲高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	「進取の精神」のもと、自ら思考し実践する、これからの社会で輝ける生徒の育成
-----------	---------------------------------------

本年度の重点目標	確かな学力の定着を図るとともに、主体的に社会を生き抜いていく生徒の育成
	多様性を認め合い、協働しながら学び活動し続ける生徒の育成
	地域・社会とのつながりを通じて、社会に貢献できる生徒の育成
	教員の働き方改革に関する取組の推進

達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)
	B	概ね達成できた。(6割以上)
	C	不十分である。(4割以上)
	D	達成できなかった。(4割以下)

山梨県立青洲高等学校校長	小林 太郎
--------------	-------

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

自 己 評 価			
本年度の重点目標			
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	確かな学力の定着を図るとともに、主体的に社会を生き抜いていく生徒の育成	学習者を主体とした授業づくりに努めるとともに、ICT機器の有効活用により授業改善に取り組み、生徒の基礎学力と学習習慣を定着させる	・授業アンケート ・学校評価アンケート
		新学習指導要領を確実に実施し、各教科で評価方法の充実・改善に取り組むとともに、生徒の自己肯定感を醸成させる取り組みを行う	・観点別評価 ・通知表への表記方法
		「やまなしスタンダード」の実践に向け、相互授業参観を通して教科を超えて学び合い、魅力ある授業づくりに取り組む	・相互授業参観の状況 ・授業アンケート ・学校評価アンケート
2	多様性を認め合い、協働しながら学び活動し続ける生徒の育成	各授業において、主体的・対話的で深い学びを推進し、他者と協働して問題解決に取り組む場面を設ける	・授業アンケート
		学校行事・生徒会活動・部活動などを通して、多様な他者と関わり合い、良好な人間関係を形成できる場面を設ける	・学校行事の計画実施 ・部活動の活性化
		教職員間での連携や保護者との連携を通して、生徒の良好な規範意識を育成する	・教員間の情報共有 ・保護者への情報発信
3	地域・社会とのつながりを通じて、社会に貢献できる生徒の育成	「峡南地域学」「総合的な探究の時間」「LHR」等を活用し、外部機関と連携しながら職業教育を推進すると共に、「青洲学」を通して地域を知り、将来の地域貢献への基盤をつくる	・計画的な実施 ・外部との連携 ・地域社会への関心度
		挨拶の励行や生活習慣の指導を通じて、将来の社会生活における良好な人間関係づくりの基盤をつくる	・校内での挨拶の状況 ・服装、髪型、遅刻状況等の様子
		生徒や保護者・地域への情報提供を充実させ、生徒の進路意識の向上と、保護者・地域の学校への理解を図る	・各種便りの充実 ・HP等の充実
4	教員の働き方改革に関する取組を推進する。	勤務時間管理の徹底と適切な勤務時間を設定し、勤務時間や健康管理を意識した働き方を徹底する。	・勤怠管理 ・学校評価アンケート
		「きずなの日」(放課後に部活動や会議等を実施しない日)など、生徒と向き合う時間を確保する。	・学校評価アンケート
		部活動ガイドラインを遵守した部活動運営に取り組む。	・学校評価アンケート

学校関係者評価	
実施日 (令和 7年 2月 7日)	
評価	意見・要望等
3	・ICT活用についてを除くと、教職員と生徒、保護者との見解に相違がみられる。生徒が気軽に相談できる状況に疑問が残るなど、ややもすると教職員側の多忙化が浮き彫りとなっているのではないか。その状況下で教職員として努力をしているようであるが、その実情が生徒や保護者に対して理解されているのかは疑問が残る。 ・ICT活用は、教職員と生徒、保護者からもしっかりと評価されており、学力定着に向けての取り組みへの更なる推進力に成り得る。今後に期待していきたい。 ・普通科、工業科、商業科と三つの学科を有する高校として、いずれの学科においても一定の成果が得られている。さらに魅力ある授業づくり、学校づくりを推進していただき、地域の子供たちにとって一番魅力ある学校になってほしいと思う。 ・自主性を重んじた教育に感謝している。生徒数が多い中での指導、ご苦労も含め評価が高い。
	・e-メッセージを活用しての連絡・連携ができているとの保護者の評価は、例年通りであるが評価できる。 ・生徒においては、学校行事や部活動を通じて、多様な方々との関りがとれているようなので今後も更なる推進を望む。 ・いじめに対する評価が低いことは気になるところ。潜在的な雰囲気が存在するようなら、小さいうちにしっかりと対応願いたい。 ・小学校・中学校段階でもそうであるが、教職員がこの項目に対して自信を持てることが、生徒が通いたいと思う学校につながると考える。 ・多様性の概念の共通認識が難しい中、精一杯の育成への取り組みが見て取れる。 ・学校生活の中で、多様性を認め合う環境が作られていると思う。 ・教員と生徒との評価に若干の差がみられるものの、概ね良好な結果となっている。より具体的な質問項目ほど評価が高い傾向にあると感じる。
	・全般を通して、教職員よりも生徒、保護者の評価が高いことから、生徒たちに取り組みの意図がしっかりと伝わっているように感じる。ただし、情報提供の部分については優劣が大きく分かれる評価もある。HPなどの充実は継続していただきたいが、生徒向けの便りが一部の保護者に共有されていないように思料するので、一考を。 ・地域にある学校として、今後もより良い中高連携の在り方を探り、効果的なものにしていきたい。 ・他校も努力しているところではあると思うが、具体的に実現し可視化されている青洲高校は素晴らしいと考える。 ・社会に目を向けることができる機会を、より多く持てるようにしていただきたい。 ・総じて教員より生徒・保護者の評価が高いことが興味深い。教員にはもっと自信を持ってもらいたい。
3	・昨年度よりも働き方改革を推進している様子が見て取れるので評価したい。きずなの日等をうまく活用し、さらに生徒と向き合うようにしていただければ幸甚。 ・取り組みを推進したことで、実際にどのような結果になっているかが大事だと思う。中学校でも大きな課題であるが、相互に活かせるような取り組みがあれば学び合いたいと思う。 ・学習指導を学校の主軸におけるのであれば教員の働く時間軸は変わるが、生活指導や保護者との関りなど、指導・育成以外の支援まで増えていくと働き方改革の取り組みは失速してしまう。 ・多岐にわたる教員の仕事に、健康に留意して励んでもらいたい。 ・多忙な中で毎日を過ごされている教員の皆様方の努力には頭が下がる。教員の勤務実態の状況を何らかの方法で生徒や保護者に共有してもらうことが重要であるのではないが。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。